

むらかみ たけよし 村上 武吉 (1533~1604)

戦国時代末期の伊予国越智郡の海賊衆。能島村上水軍の当主。越智郡の能島(現、今治市)を本拠とし、能島村上氏と呼ばれる。同郡の来島(現、今治市)を本拠とする来島村上氏、備後国御調郡の因島(現、広島県尾道市)を本拠とする因島村上氏と共に三島村上氏とも称せられる。

最盛期の勢力は芸予諸島(広島県、愛媛県)を中心に、防予諸島(山口県、愛媛県)、塩飽諸島(香川県)、周防国上関(現、山口県熊毛郡上関町)、備中国笠岡(現、岡山県笠岡市)などにもおよんだ。武吉は嫡流の義益と争って家督を継承したと伝えられる。河野氏、毛利氏、大友氏など周辺大名と結びながらも、その行動には独自性が強くみられた。一時は大内氏とも結ぶが、毛利元就が陶晴賢を破った厳島合戦では陶方の軍船を撃破し、毛利氏の勝利に貢献したと伝えられる。天正13(1585)年に河野氏が羽柴(豊臣)秀吉に降伏してからは、小早川隆景の家臣団に入る。しかし同16(1588)年、秀吉により海賊禁止令が出されたのちは不遇で、各地を転々とし、晩年は周防大島(現、山口県大島郡)に隠棲した。

略歴

| | |
|-------------|---|
| 天文2(1533)年 | この年に生誕したとされる。 |
| 天文24(1555)年 | 毛利元就と陶晴賢の厳島の戦いの際に、毛利方に加勢か。 |
| 永禄元(1558)年 | このころ、三好方に属し讃岐天霧城で合戦する。 |
| 永禄11(1568)年 | 宇和郡と喜多郡の境で鳥坂合戦が行われ、能島・来島村上氏も参戦する。 |
| 元亀元(1570)年 | 毛利氏と盟約を結ぶ。 |
| 元亀2(1571)年 | 公然と大友氏に味方し、毛利氏と来島・因島村上氏が能島城を包囲する。 |
| 元亀3(1572)年 | 大友宗麟の斡旋で来島村上氏と和解する。 |
| 天正4(1576)年 | 第一次木津川口の戦いで嫡男の元吉が参戦して毛利勢に加わり、本願寺を助けて織田軍を破る。 |
| 天正5(1577)年 | 嫡男・元吉が小早川隆景を助けて讃岐に出陣し、長曾我部氏の兵を破る。 |
| 天正6(1578)年 | 第二次木津川口の戦いで毛利勢に加わり、織田軍に敗北する。 |
| 天正9(1581)年 | 厳島神社の祝師に過所旗を与える。 |
| 天正10(1582)年 | 織田方の勧誘を断り、河野・毛利方に属す。 |
| 天正13(1585)年 | 務司・中途城を退去し、小早川隆景から屋代島ほかを与えられる。 |
| 天正16(1588)年 | 豊臣秀吉が海賊禁止令を発布。それに背いたとして豊臣政権から詰問を受け、小早川隆景の筑前移封に伴い移住する。 |
| 慶長5(1600)年 | 関ヶ原の合戦。これに呼応した伊予国三津浜の合戦で嫡男の元吉戦死 |
| 慶長9(1604)年 | 戦後、毛利氏が防長2国に移封され、それに伴い領地を移す。 永眠。法号は大仙寺覚甫元正。 |

〈関連図書〉

- ・村上公一『村上海賊史』 因島市史料館 1972年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・山内譲『瀬戸内の海賊 村上武吉の戦い』 講談社 2005年
- ・新人物往来社『戦国水軍と村上一族 日本最強の瀬戸内水軍を率いた海賊大将「村上武吉」と海のサムライたち』 新人物往来社 2005年
- ・森本繁『村上水軍全史』 新人物往来社 2007年

〈ゆかりのある場所〉…(P286, 89)

〈関連施設〉…村上海賊ミュージアム

〒794-2203 愛媛県今治市宮窪町宮窪1285 TEL: 0897-74-1065